

第6次中期経営計画
(平成24年度～平成26年度)

社会的使命の実現



think the world of ^{スリーエス}3S

梨北農業協同組合

【社会的使命の実現】

think the world of ^{スリーエス}3S

～ 植^{ソウイング}(sowing)を愛でる 食^{ステイブル}(staple)を愛でる 職^{スタッフ}(staff)を愛でる ～

生産者と消費者の連携による双方向からの農業の発展
総合力を発揮した地域との関わりによる事業基盤の拡充
健全経営が確立された総合事業体としての特性の発揮

「社会的使命を実現するために組合員の出資でつくられた協同組織」として、農業協同組合が誕生(1947年)してから65年、「組合員が出資して運営に参加し事業を利用する」という協同活動理念は、時代の流れと共に薄れつつあります。特に、「農協」が「JA」という愛称を決定した1992年から20年、日本だけでなく世界にはびこった市場原理主義によって、JAは社会的使命を達成するための持続的活動の術を次々に奪い取られ、社会的使命の実現と経営の両立の難しさを突きつけられました。

世界に市場原理主義がはびこって以来、数字でものを見るのが通例となり、社会的使命の実現と現実の経営との間で翻弄され続けたJAは、設立当時の社会的な志さえも見失いそうになっております。一方、市場経済が利益の最大化のみを追求した結果、農林水産業などの第一次産業は追い詰められ、「瑞穂の国」でありながら、農民は秋に米が実っても笑い顔を見せることさえなくなりました。経済社会において利潤が追求されることは当然ですが、社会的使命の実現をさておき、市場経済の中で自組織の発展を最優先する事業体に化することは、JAの根幹である「相互扶助」の精神に異を唱えることになります。

さて、JAの経営基盤さえも揺るがしかねないこのような状況を、根底から覆す契機となったのは、あの東日本大震災ではなかったでしょうか。市場原理主義の社会において失われつつあった「日本の品格」を、奇しくもこの大震災が取り戻してくれたのです。「一人が万人のために、万人が一人のために」という協同組合精神を日本人全員の心に蘇らせ、譲り合いの精神に培われた「日本の誇り」を思い出させてくれました。当たり前なことを当たり前に行い、それを当たり前なこととせず感謝して受け止める「日本の品格」を醸成させたのです。社会的使命からかけ離れてしまった市場経済によって劣化しつつあった社会は、東日本と共に協同組合活動によって「復興」するに違いありません。

このような社会情勢において、JAに課された最優先されるべき社会的使命は、「食」を守ることです。「安全・安心」な国産農畜産物を提供するためには、日本の農業を守らなければなりません。しかしながら、日本の農業は、JAや生産者だけでは守ることができません。日本の農業の逼迫した実状に対する消費者の理解があってこそ、それは守られるのです。このことを基軸として、当JAでは、「社会的使命の実現」をテーマとした第6次中期経営計画を策定いたしました。農業を振興する「植^{ソウイング}(sowing)」、安全・安心を提供する「食^{ステイブル}(staple)」、組織・組合員・消費者である「職^{スタッフ}(staff)」、この3つの“^もショク”を愛でること(think the world of ^{スリーエス}3S)をスローガンに、「生産者と消費者の連携による双方向からの農業の発展」「総合力を発揮した地域との関わりによる事業基盤の拡充」「健全経営が確立された総合事業体としての特性の発揮」を実践することにより、社会的使命を果たしてまいります。

社会的使命の実現

～ 植 (sowing) を愛でる 食 (staple) を愛でる 職 (staff) を愛でる ～
 think the world of 3S

梨北農業づくり

「梨北ブランド」の展開
 地域農業戦略の実践
 生産コスト抑制
 環境保全型農業
 循環型農業
 見える営農指導・伝える営農指導
 食料自給率の向上
 農地の保全

購買メリットの提供

営農指導を付加した生産資材
 取引形態別価格体系
 JA事業総合ポイント制度
 『JAグリーンりほく』の還元メリット
 複数取引割引による生活支援
 「使い易さ・暮らし易さ」の追求
 センター体制の強化
 相談サービスの充実

JAくらしの活動

女性部
 ひまわりの会
 高齢者生活支援
 健康寿命100歳宣言
 りほくケアネットワーク
 高齢者総合ケアセンター
 りほく病院
 食育活動

選ばれるJAバンク

個人メインバンクの拡大
 年金シエアの拡充
 JAオリエジナルサービス
 資金需要への対応
 農業メインバンクの充実
 相談業務の充実

「ひと・いえ・くるま」の保障

「安心」と「満足」の提供
 ライフプランのサポート
 オールリスク対応
 ニューパートナー獲得
 事業クロスセルの深化
 LA体制の強化

経営管理の強化

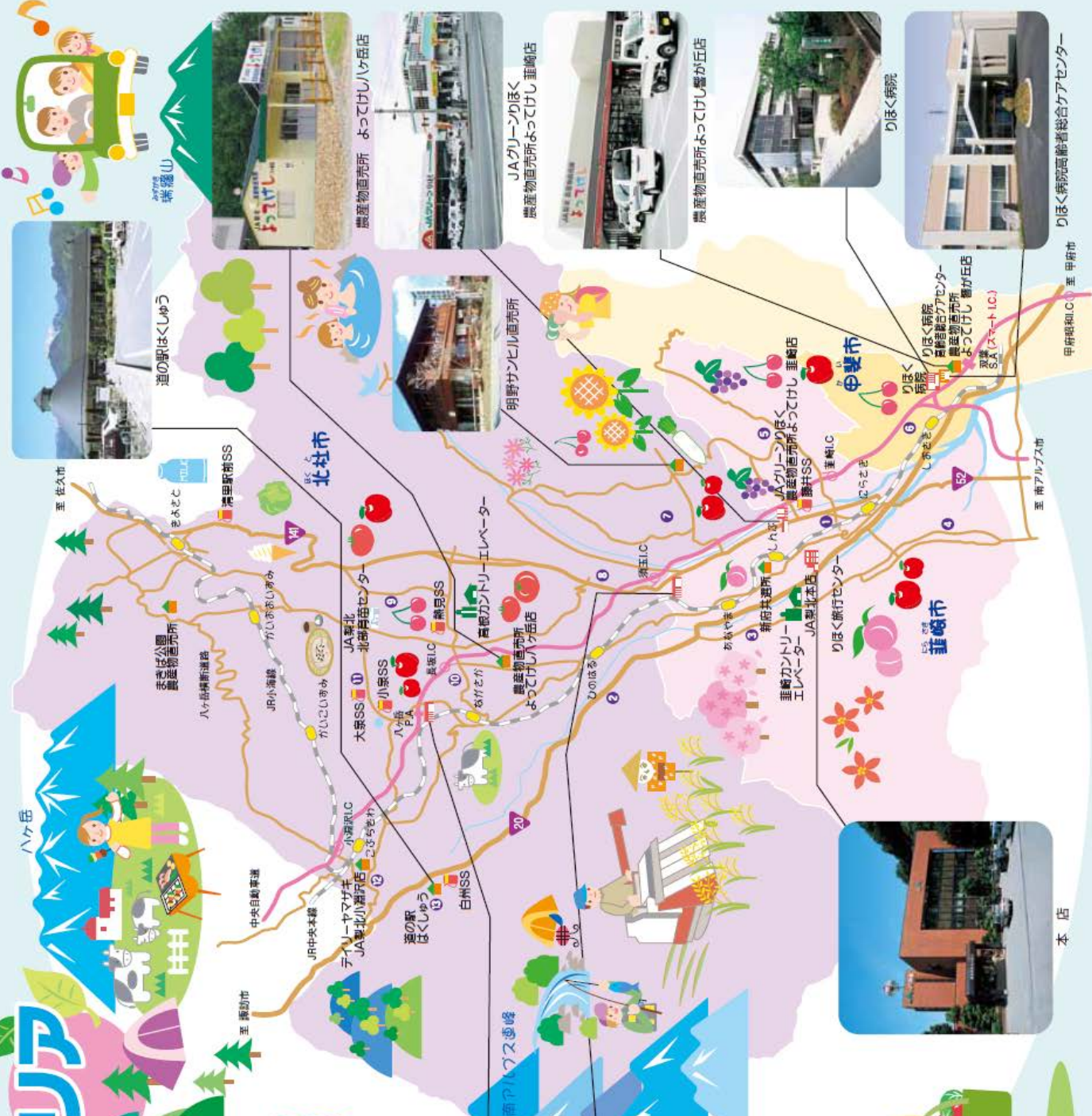
ガバナンス（経営管理態勢）の強化
 トータルリスク管理の強化
 コンプライアンスによる法化対応
 利用者保護管理態勢の充実 事業継続計画

りほくエリア マップ

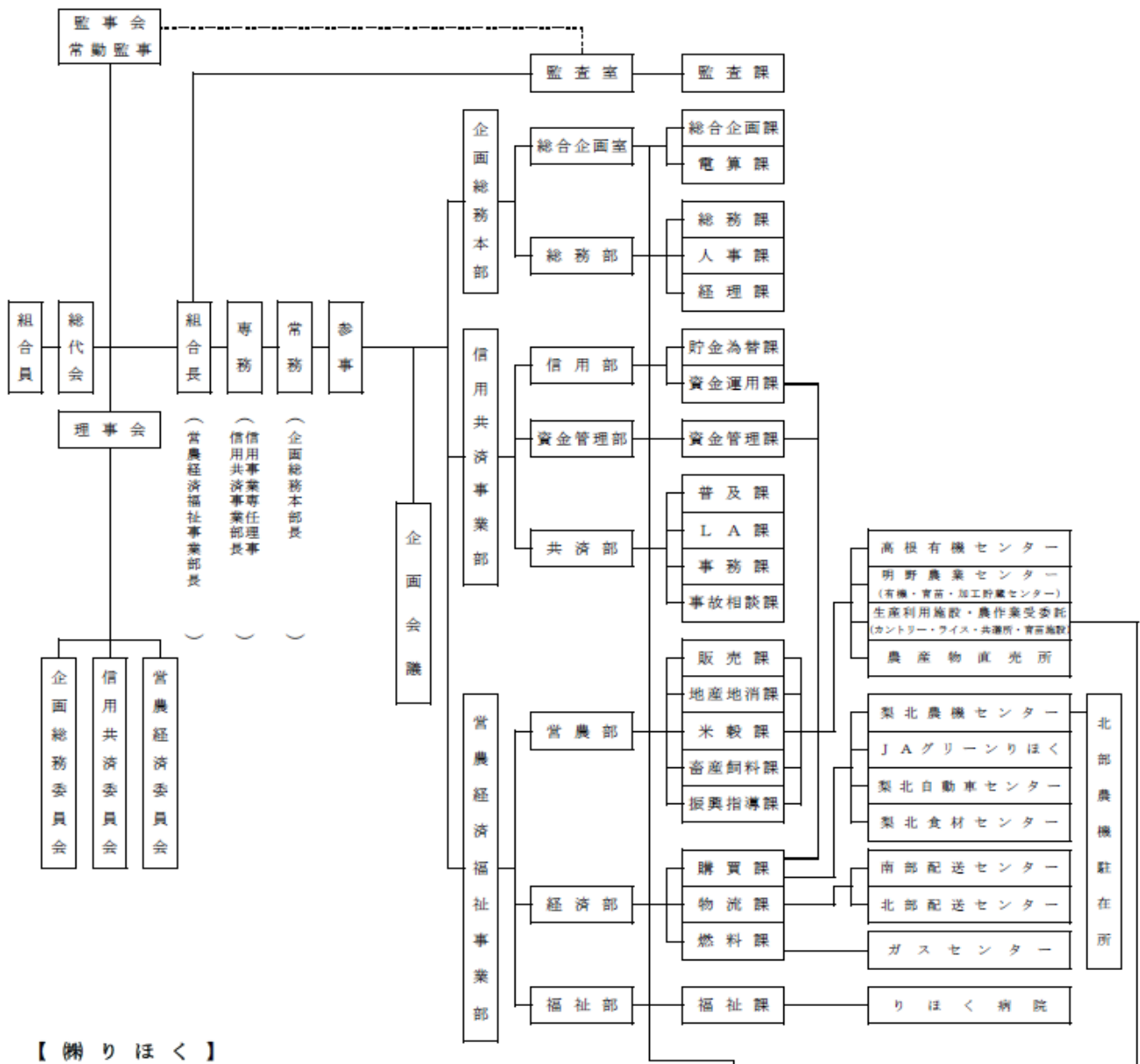
JA梨北管内地域の状況

	人口	世帯数	農業世帯	農業人口	農業就業人口
至 高 市	143,723	31,318	12,406	960	7.7%
北 北 市	602,891	48,905	20,667	2,318	11.2%
青 森 市	18,896	15,699	6,197	258	4.2%
合 計	765,480	95,912	39,264	3,536	9.0%

※農業者人口は農業者世帯数に4倍を目安に算出。
 ※至高市人口は農業者世帯数に4倍を目安に算出。
 ※至高市農業人口は農業者世帯数に4倍を目安に算出。
 ※至高市農業就業人口は農業者世帯数に4倍を目安に算出。



組織の構成



【 粥りほく 】

葬祭センター	業 務 移 管
J A りほくセレモニーホール	
J A りほくセレモニーハナ音ホール	
りほく旅行センター	
大滝湧水	
藤井 S S	
熟見 S S	
清里駅前 S S	
小泉 S S	
大泉 S S	
白州 S S	
デイリーヤマザキ J A 梨北小瀬沢店	